

「もう一つのセンター試験・漢文」と題する問題を作成するのは4年めとなる。本年度の「センター試験・漢文」の問題は、過去3年間とはうって変わって漢文らしい問題になった。特に昨年度の漢文は易しかっただけに、受験生にとつては手強い問題となったかもしれない。中間集計(1/26)の時点で、昨年度に比べて15点以上国語の平均点が低下しているが、そのうち漢文で低下している分が10点を超えると、私は予想している。

さて、本年度も選択肢の長さをそろえることに意を注いだ。書き下し文の問題のみ長さが不揃いであるが、それはご容赦願いたい。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(設問の都合で、返り点・送り仮名を省いたところがある。)

吾郷ノ錢明経善ニクス詩賦ヲ。毎歳督学ノ科歳ニ試ニミルニ古詩ヲ、錢必冠軍タリ。一歳題為リ天柱ノ賦。錢入レ場ニ時、飲レムコト酒ヲ過ギレ多キニ竟大醉シ、入レルニ号ニ輒酣睡ス。同レシクスル試者疾其每試居首、不肯ヘテ呼レビテ之ヲ使メレ醒メ。有リテ納卷ノ者過ニ其ノ旁、乃告レ之。錢始然タルモ、已無シレ及フ矣。卒爾トシテ問ヒレ題ヲ、書スニ七言絶句一首ヲ。詩ニ云フ

我来ニリテ揚子江ノ頭ニ一望

一片ノ白雲数点ノ山

安クンゾ得ン丁置ニ身ヲ天柱ノ頂ニ

倒ニ看丙ルヲ日月ノ走乙ルヲ人

学使得レ卷ヲ、評シテ云フ「此人胸中ニ不トレ知ラレ吞ニ幾雲夢ヲ。」仍取ルニ第一ニ。

(姚元之『竹葉亭雜記』による)

(注)

- 1 銭明経……人名。
- 2 賦……韻文の一種。長編を原則とする。
- 3 督学……官名。官吏を登用するための予備段階の試験において出題や採点を管轄した責任者。
- 4 科歳……科試と歳試。ともに官吏登用のための予備段階の試験のこと。
- 5 冠軍……成績最上位者。
- 6 天柱……神話の中に出てくる、天を支えているという柱。
- 7 場……試験の会場。
- 8 号……試験場の中にある受験者用の小さな個室。
- 9 納卷者……答案を回収する係の役人。
- 10 菅 然……ぼんやりすること。
- 11 揚子江……長江の別名。
- 12 学使……督学の別名。
- 13 雲夢……古代、長江中流域にあつた広大な湿原の名。

問1 傍線部 a「過」・ b「頭」と同じ意味の「過」「頭」を含む熟語として最も適当なものを次の各群の 〃 のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | |
|--|------|----|----|----|----|----|
| | a「過」 | 通過 | 過分 | 罪過 | 過失 | 過度 |
| | b「頭」 | 頭目 | 街頭 | 冒頭 | 年頭 | 頭髮 |
- 問2 傍線部ア「乃」と同じ読みの漢字を文中の二重傍線部 〃 の中から一つ選びなさい。
- 竟 輒 始 已 仍

問3 傍線部A「疾其每試居首」について、(1)返り点の付け方と書き下し文、(2)その解釈として最も適当なものを、次の各群

のうちのからそれぞれ一つずつ選びなさい。

(1)の返り点の付け方と書き下し文

- 疾二其每試一居レ首 其の毎つねに試はを疾はくし首に居る
- 疾レ其每レ試居レ首 其れを疾にみ試毎ごとに首に居る
- 疾レ其每二試居一 其れを疾はくし試に居る毎ごとに首にたり
- 疾二其每試一レ居レ首 其の毎つねに首に居るを試みるを疾む
- 疾二其每レ試居一レ首 其の試毎ごとに首に居るを疾む

(2) 解釈

試験をするたびに銭よりは上位になるように努力する
銭を嫌っていて試験では負けない事を目標にしている
試験をするたびに銭が第一位になるのを快く思わない
試験ではいつも銭が一番に答案を仕上げて首位になる
銭が試験ごとに一番になるうとするのを不愉快に思う

問4

銭明経が試験を受けて答案を提出するまでの説明として最も適当なものを、次の 〃 の中から一つ選びなさい。
銭明経は酒を飲み過ぎて酔って寝てしまっていたが、同じ会場で試験を受けていた者に起こされて題を聞くと、大急ぎでとりかかり何とか指定された通りの答案を仕上げて提出することができた。

銭明経は試験会場で酒を飲んで眠ってしまった、ぎりぎりになってようやく目が覚めたが誰も問題を教えてくれなかった。銭明経は試験会場に入るときに酒を飲んで眠ってしまったが、同時に試験を受けていた者が試験官を呼んで起こしてくれた、それから大あわてで作品にとりかかり何とか制限時間内に完成させた。

銭明経は酒を飲んでいたために酔って寝てしまい、答案を集めに来たものに起こされたときにはもはや時間がなくて、課題通りに作品を仕上げる事ができなかったが何とか別の形式で提出した。

銭明経は酒を飲み過ぎて酔っぱらって眠り込んでしまい、答案を集めに来られるまで全く気づかずだったが、試験終了直前に題を教えるもらうと集中して課題に取り組みうまく答案を完成させた。

問5 傍線部B「倒看日月走人□」について、(a)空欄に入る語と、(b)この句全体の解釈との組み合わせとして最も適当なものを選びなさい。

- | | | | |
|-----|---|-----|---------------------------|
| (a) | 里 | (a) | 太陽や月が逆に動いているのを人々が驚いて見ている。 |
| (a) | 歡 | (b) | 太陽や月の運行を人々が喜んで地上から見上げている。 |
| (a) | 中 | (b) | 太陽や月を逆立ちをしてみると人間の方が上に見える。 |
| (a) | 間 | (b) | 太陽や月が人間界を巡っていくのを逆に上から眺める。 |
| (a) | 顔 | (b) | 太陽や月を背にして人の顔を見ると陰影が濃く見える。 |

問6

錢経明の詩の腕前を説明したものととして最も適当なものを次のア～オの中から一つ選びなさい。

錢経明は詩が得意でいつも最上位の成績を収め、ある時の試験でうっかり寝込んでしまったが、それでも結果的にはやはり首席となった。

錢経明は詩が得意だったが、ある時の試験であろうことが試験中に眠ってしまい、このときばかりは答案を提出できずさんざんであった。

錢経明はつねに詩をたしなむにはいたがそんなに上手というほどではなかったけれども、ある時の試験で試験官を感心させる詩を作った。

錢経明はいつも自分の詩の腕前を鼻にかけていて、ある時の試験で他の受験生の妨害にあつて詩の題も教えてもらえず詩を作れなかった。

錢経明は詩が好きで多くの詩を研究していたが、ある時の試験で題意になつた良い詩を作り実作でも優れた腕前であることが分かった。

解答	問 1 a	b	問 2	問 3 (1)	(2)	問 4	問 5	問 6
解説								

「全体」

解答数は8問で、実際のセンター試験と同じ。問題の作り方もほぼ踏襲した。なにしろ問題文が短いので問にできることは限られている。結果的に聞いている内容は同じだが、問の装いを変えてあるという問題が多くなる。難易度はセンター試験と同じくらいだろう。センター試験を一度解いた生徒がやると、当然易しく感じると思われる。

「各問」

問1 漢字の用法の問題を設定した。出題の仕方は、数年前のセンターによくあったタイプにした。すなわち、文中のある漢字Aと同じ意味のAを含む熟語として最も適当なものを選ばせる問題である。問題としてはこのタイプの方がスマートに見える。

問2 実際のセンター試験では三つの漢字の読みの組み合わせになっていた。ここでは、単純に同じ読みの漢字を選ばせる問題にした。昨年度「遂」の読みを問う問題が出て、本年度同じ読みである「竟」がからむ問題が出題されている。そこで、本年度出題されている「乃」と同じ読みの語を指摘させることにした。正解の「輒」は本年度の実際のセンター試験の問題文ではルビがついていた。

問3 (1)返り点・書き下し文と(2)解釈を選ばせる問題。、両方とも正解か、両方とも不正解になるのが本来であると思われるが、実際はそうでもないだろう。逆に言うと、二つの解答を両方とも不正解になると減点が大きくなりすぎる嫌いがある。問題文が短いために一か所で複数の問題を作らねばならない。

問4 一か所に傍線を引くのではなく、文章全体を読み取る問題。切り口は事件の流れ。三つのポイントがある。銭明経が眠ってしまったこと、銭明経がいつ起きたか、答案は提出できたかどうか。後の二つのポイントをきちんと押さえれば正解に至る。

問5 詩の韻と解釈を組み合わせた問題。実際のセンターでは韻の知識から二つに絞れたが、ここでは韻の知識だけでは選択肢は三つ残るようにした。あとは、内容であるが、実際のセンター試験の問6の内容を取り込んだ問題になっている。すなわちポイントは「倒」の解釈である。

問6 これも文章全体の読み取り。問4との違いを出すのに苦労した。出だしの「冠軍」や最後の「第一」を見れば、最初から最後まで彼の詩の腕前は第一であったことがわかる。